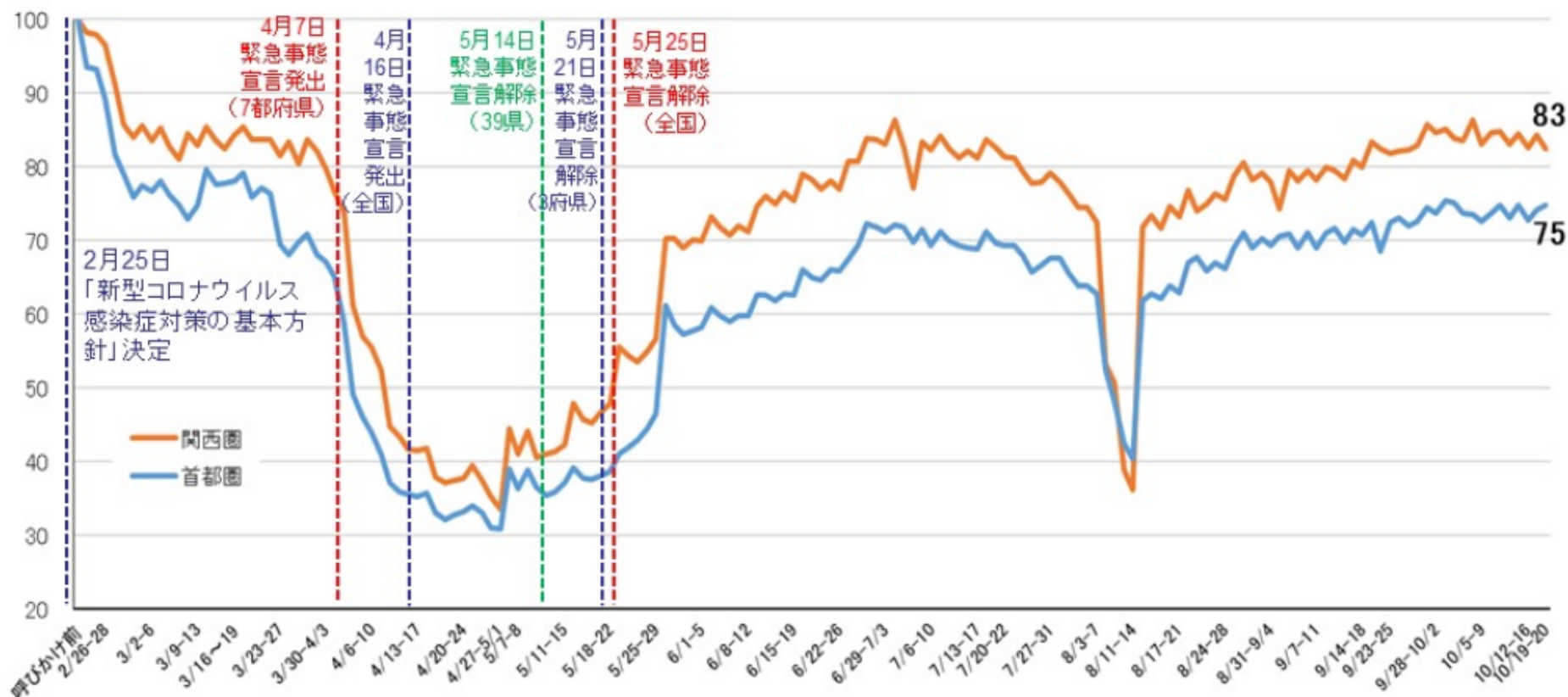


# 新型コロナウイルス出現による 国内の人々の行動や意識の変化について

国際医療福祉大学医学部公衆衛生学  
和田耕治 提出資料

## テレワーク・時差出勤呼びかけ後のピーク時間帯の駅利用状況推移



[https://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo\\_fr1\\_000062.html](https://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo_fr1_000062.html)

- ※ JR(JR東日本、JR西日本)、大手民鉄(東武、西武、京成、京王、小田急、東急、京急、東京メトロ、相鉄、近鉄、南海、京阪、阪急、阪神)の主なターミナル駅における平日ピーク時間帯の自動改札出場者数の減少率の平均値
- ※ 数値は、呼びかけ前を100とした場合の指数
- ※ 「呼びかけ前」は、2月17日の週の特定日
- ※ ピーク時間帯は、各駅において7:30~9:30の間の1時間で最も利用者が多い時間帯
- ※ 主なターミナル駅は、以下のとおり  
 首都圏: 東京、新宿、渋谷、品川、池袋、高田馬場、大手町、北千住、押上、日暮里、町田、横浜  
 関西圏: 大阪・梅田、京都、神戸三宮、難波、京橋

ピーク時間帯の駅利用は、呼びかけ前と比較して7から8割となった<sub>2</sub>

- 1. 新型コロナウイルスは当面は継続して流行する想定を。ワクチンや特効薬が開発されるまでは、感染対策は継続する必要がある。今後は、感染者がいても、感染を広げない地域作りを中長期の目標とすべき。**
- 2. 年齢が高くなると、重症になる可能性が高い傾向（特に60歳以上）。一方で、60歳未満での死亡の可能性は比較的低い。人々の、新型コロナウイルスに関するリスク認識は、今後も感染状況によって変わるであろう。この冬をどのように乗り越えるかによって中長期の見通しが変わりえる。**
- 3. 大都市も感染拡大によって影響を受けうるが、地方都市でも一部の場所（繁華街などから地域へ）で感染がある程度広がる可能性がある。地方都市は、医療が脆弱であることも多く、医療崩壊などが起こりえる。そうした際には広域での医療支援も必要となる。**